

「伝統・文化」体感型ワークショップ 【研修編⑤】

陶芸「土でつくる」(受講者 15 名)

講 師： 大原 千尋

実施日：平成 22 年 7 月 27 日(火)／8 月 5 日(木)・19 日(木)・27 日(金)

- =====
- 目 的：・準備や管理・焼成が面倒で敬遠されがちな陶芸の基礎をわかりやすく伝え、初心者でも授業に取り入れてみようという意欲がわくようにする。
- ・伝統・文化の教育に寄与する。

■期待される効果：

- ・土の特性を理解する。
- ・成形、装飾のバリエーションを楽しむ。音が出る楽しみを知る。

■準備教材・設備等：

テキスト、写真、スクリーン、粘土、釉薬（透明釉）、下絵の具（弁柄、呉須、銅）、ダンボール、ひも

■研修の流れ（@3 時間×4 日）

焼き物の工程について説明および講師の作品を画像で鑑賞

↓

成形：土の特性や扱い方、技法工程について理解を深めながら「土鈴」と、型紙を使った器を成形する。

↓

削り：表面や縁を削り、形を整える。穴をあける。

↓

絵付けと釉掛け：下絵の具で模様を描き、上から透明釉を塗る

↓

仕上げ：鈴玉を付け、音を確認する

↓

まとめ：互いの作品を鑑賞し、授業での活用等について紹介、協議する。

■Advice points

- ・講習時間外の作業（土の準備、作品の管理、窯詰め、焼成など）が、とても大事な
ので時間配分を考えて計画的に行うことが重要。

■講師の感想（要約）

陶芸に慣れている受講者は自分なりに工夫を凝らし、期待以上の作品ができた。初心者でも失敗なく完成でき、慣れた人なら失敗を恐れて行わないような技術にも挑戦していた。事前準備、製作中の作品や土の管理、焼成には今後各自で経験を積んでいていただきたい。陶芸のポイントや、成形、装飾はある程度習得できたようだ。できあがった土鈴のそれぞれ個性ある音を活用する機会として、音楽科とのコラボレーション（鑑賞・演奏）など、科目を越えた研修ができれば、それぞれの成果をさらに深く実感できると感じた。

■研修者の感想（抜粋・要約）

- ・最近の子どもたちは物や商品の素材にほとんど知識も興味もないが、陶芸は子どもが興味を持って取り組み、身近に伝統を知ることができると思う。
- ・粘土は制作途中で思い通りの形にならなくても、そこからまた自由に発想が広がり、制作の自由さを感じることができる教材である。「素材との会話」という意味で生徒にも触れさせたい。
- ・陶芸作品の制作には無限の可能性とおもしろさがある。
- ・ダンボールを使った皿や中をくりぬいてつくる立体などは、授業でも取り組める。
- ・学校に道具もそろっているが、授業時数の削減で1時間では陶芸ができない。また、窯があっても使用不可になっているのが現状。
- ・伝統工芸は確固たる技術の上に成り立つため、「こうでないといけない」となりがちだが、今回「最低限、大事なことだけおさえてやりましょう」というスタンスは学校での指導でも大事と思った。
- ・これまで学んだ陶芸の知識や技術、指導方法の再確認と人から学ぶ大切さを改めて感じた。

